

ジェット延長提案強行抗議・布施組織部長不当解雇撤回

1.8~9 減産闘争に決起せよ!

日刊 動労千葉

81.1.7

No. 625

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五~六(公衆)05(22)七二〇七

銚子支部デッチ上げ「再建」粉砕!

一月八日、国鉄当局は「ジェット燃料暫定貨車輸送延長提案を強行せんとしている。年末段階における「延長提案強行策動に対するわが動労千葉の布施組織部長不当解雇抗議の減産闘争を中心とする強固な闘争体制の前に年末年始輸送への影響を恐れ、のびのびとなっていたのである。それによって国鉄当局の動向を軌を二にして、動労本部革マル反動分子は、石毛・大川ら八人の悪質分子と結託して、銚子支部「デッチ上げ」再建策動を強めている。

動労千葉闘争委員会は、このような「813」をめぐる情勢の切迫に対し「闘争指令才五号」をもって、全組合員が一月総行動に決起することを指令した。この一月総決起行動の突破口は、一月七日から開始される一月才一次銚子オルグとあわせて一月八日、九日の二日間の「ジェット延長提案強行抗議・布施組織部長不当解雇撤回をかけた減産闘争の貫徹である。全組合員の怒りの決起をもって叩いぬこう。

一月総決起行動を突破口に、813闘争へ一丸となって前進しよう

「813ジェット延長」の最大のポイントを握りしめて叩きつけるわが動労千葉に対し、三月が近づいてきたが、敵の攻撃がますますストレートに、そしてあからさまな形であらわれはじめている。

まずオニに、国鉄当局は「昨年末の12月24日布施組織部長に対する不当解雇処分」の強行発令である。

この攻撃は、明らかに動労千葉を「813」の前にたたきつぐようとする極めて悪質な攻撃である。そもそも布施組織部長に対する不当解雇処分は、80春国鉄破産のための動労本部革マル反動分子による「45津田沼襲撃事件」を口実にするものであった。

この襲撃が、わが動労千葉によって粉碎されるや、当局に泣きつき「動労千葉を処分してくれ」と要求したことで、「この発端」があったのである。こうして国鉄当局「本部」革マル反動分子一体となった布施組織部長不当解雇処分を「813」を叩くこととするわが動労千葉に対する組織破壊攻撃として受けとめ、12月25日のオニ波闘争に引き続き、怒りを込めて8日以降の叩きに決起しよう。

オニに、ジェット燃料暫定貨車輸送延長提案の強行である。

「550タイプ改」業務員運用合理化」をもって燃料輸送要員生み出しと動労千葉破壊を狙った国鉄当局の攻撃に対し、わが動労千葉は、10月総決起行動を引き継ぐべし、強い叩きによって完全に粉砕してきた。さらに当局は、年末段階において布施組織部長不当解雇処分とあわせて「ジェット延長提案強行」を策動したのであったが、われわれの強固な闘争体制の前に断念せざるを得なかったのである。

こうしてわが動労千葉の叩きの前につづいて「ジェット延長提案」が先まおくりされる中で、ついに、当局は、準備期間のシミットで追われ、一月八日、ジェット

延長の強行提案をせんとしている。われわれは、この向の業務員運用合理化粉碎・35万人体制粉砕闘争の勝利的貫徹に心まえ、今日の叩く労働者・人民との強固な連帯をもって、一月総決起行動を突破口とする813闘争へ一丸となって前進しよう。

オニに、動労本部革マル反動分子と石毛大川ら八人の悪質分子による銚子支部デッチ上げ策動の強まりである。

この向、一貫して動労千葉破壊のために、権力・当局と一体となり、やりたい放題の悪事を働いてきた動労本部革マル反動分子と結託した大川・石毛ら悪質分子は、813闘争の爆発をおそれ、銚子を動労千葉破壊のための拠点とせんがために、12月23日の銚子支部執行委員会において、採決をもって「銚子は中立、現状維持」と決めた10月27日の臨時大会決定を勝手にくつがえし、「銚子はもともと動労の組合員」「業務再建」などのいう事をデッチ上げの「決定」したのである。

「813闘争」の勝利は、このような銚子における動労本部革マル反動分子の組合民主主義を破壊する暴挙と対決し、これを粉砕することには、あり得ないことを全組合員がガツクリととらえさせなければならぬ。銚子支部を動労千葉破壊の「拠点」としてはならない。そして、全ての銚子の仲間に対し、わが動労千葉と共にスクラムを組んで前進するのだから、本部革マル反動分子の動労千葉破壊の手先となるのだから、真正面から提起し、徹底した説得行動、一部の悪質な悪質分子の徹底糾弾と共にを履行していこう。